



発行所・発行人

東京都小学校

学校行事研究会

会長 鈴木 恒雄

広報部

大田区立

北糀谷小学校

細井 鏡子

Tel 03-3742-5371



「ウィズコロナの学校行事に向けて」

東京都小学校学校行事研究会

会長 鈴木 恒雄

(武蔵野市立第五小学校長)

小学校新学習指導要領全面実施初年度であり、東京オリンピック・パラリンピックが開催されるはずであった令和2年(2020年)は、新型コロナウイルス感染症が世界中で猛威を振るい、人間の社会生活が一変する一年となりました。その影響は当然学校にも及び、子どもたちの学校生活も教育活動も大きく変わりました。飛沫防止、三密の回避等から、学校生活に必要な不可欠な会話や接触を伴う活動が制約されました。音楽や体育、家庭科等実技を伴う教科をはじめとして、学習を進めるにはこれまでにない様々な工夫をしなければなりませんでした。

国の緊急事態宣言に伴う臨時休業が二か月に及び、学校再開後も学びの保障に苦心する中、とりわけ大きな影響を受けたのが特別活動ではなかったでしょうか。中でも、大きな集団での

活動が基本となる学校行事は、その多くが中止や延期、規模の縮小を余儀なくされました。これまで当たり前のように行われてきた、運動会や学芸会、音楽会、遠足や移動教室等の大きな学校行事がいつもどおりに実施できず、そのことが子どもたちの健やかな成長はもとより学校の風土や文化に及ぼした影響は予想以上に大きなものでした。

また近年、次々と生まれる新たな教育課題の解決に向けた取組や働き方改革が進められる中で、学校行事が無闇に削減される傾向がありました。このコロナ禍によって学校行事を通常通りに実施できなくなって初めて、その大切さを改めて認識し、価値を見直したのは私だけではないでしょう。子どもたちに全人的な力・非認知能力を育む学校行事を、簡単に「できないか

らやらない」とするのではなく、「できることを工夫してやる」ために「どうすればできるか」、学校をあげて考え、取り組まれたのではないかと推察します。前年度踏襲でない、クリエイティブな発想や実行力が発揮された例も多々あったのではないのでしょうか。

さて、これまで本研究会は、学校行事を通して仲間と共につくりあげる、本物に触れる体験や感動体験を積み重ねることによって、子どもたちに生きる力を育むことができるよう、優れた教育実践を共有し発信することで、学校行事のあるべき姿について研究を重ねてまいりました。しかし、今年度は、東京都教職員研修センターとの夏季連携研修、秋に実施してきた実践的な研修会を中止せざるを得ませんでした。また、都内を四地区に分けて年度末に実施してきた地区別研究発表会については、区部と市部の二地区にしてなんとか開催できないかと検討しました。また、研究集録での紙面発表(市部の実践は多摩特別活動連絡協議会のオンライン研究発表会の中でも報告)とさせていただきました。各小学校にお送りする今年度の研究収録には、都内各地区の学校が感染予防対策を講じながら工夫して取り組んだ学校行事の実践報告を掲載しています。今後ウィズコロナの学校行事に取り組んでいく上で大変参考になるものです。ぜひ、ご活用ください。

地区別発表会より（西地区）

二月二十六日（金） オンライン発表

主題『よりよい社会を自ら築く力を育てる学校

行事の創造』～「仲間」「本物」「感動」

そして「共生」へ～

西地区では、多摩特別活動連絡協議会のオンライン研究発表会の中で、八王子市立みなみ野小学校 関 駿太 教諭による「コロナ禍での日光移動教室（遠足・宿泊的行事）～感謝の気持ちをもち、互いのよさを認め合い、協働できる児童の育成～」の実践報告をしました。

本実践では、四つの視点をもとに研究テーマに迫りました。

視点一 活動の見通しをもち、自分の目標を立てる指導の工夫

視点二 自己有用感を味わう指導の工夫

視点三 各教科等と特別活動を往還関係にした指導

視点四 意図的・計画的な下学年とのつながりを意識した指導

事前に行った児童へのアンケートの結果や担任の思いをもとにスローガン「感謝の気持ちを大切に、みんなで助け合える楽しい移動教室にしよう」と指導内容

① これまで全ての学びを生かす活動（係、当番、児童会、クラブなど）

② この仲間としか創り上げられない移動教室にすること

③ 一人一人が責任を果たした上で、仲間と本物の感動体験ができること

を示して取り組みました。成果と課題としては、次のようなことがあげられました。

〈成果〉

◎例年とは違うということを子供たちも意識をし、感染症対策を踏まえた工夫が、どの行事でも大きな成長へとつながったことを実感していた。

↓キャンペーンやバズレクなど、感染症対策のため、できることを大幅に縮小したが、準備をした友達を認め合う声が多く聞かれた。

◎一連の指導過程を繰り返すことで、子供たちの問題意識を高め、意図的、計画的な指導をすることができた。

◎どの行事にも、クラスでの合意形成、個人の意思決定をすることを通して、学校行事を自分たちでつくりあげることのできた達成感を得ていた。

◎感謝の思いを下学年へ返そうと行った「メッセージ」が学校全体へ波及し、互いに認め合う風土ができていた。

◎「感謝」を全ての行事に掲げたことで、行事を行えることの感謝や友達と認め合いながら取り組んでいこうとする態度が見られた。

〈課題〉

◇学校行事で高めた資質・能力を、日常生活でより効果的に活用していくこと

〈所感〉

今年度は、移動教室が中止になった学校も多く、実施できても様々なことが制約されました。本実践は、「感染症対策と子供たちの健やかな学びの保障（文科省）」をもとに、市教育委員会の支援のもと、保護者の了解を得て実施されました。「この状況だからできない」ではなく、「この状況ではどうするか、できることは何かを考えていく」、工夫を凝らすことで、できる可能性を見出して取り組んだ実践でした。本実践からは、困難な状況の中でも学校行事でよりよい社会を自ら築く力が育っていく子供たちの姿の一端が伺われました。改めて、学校行事の果たす役割の重要性を確認することもできました。



“感謝”の言葉を学年経営方針として一年間継続して指導した

今年度の研究実践

一、研究総会 〈書面総会〉

六月十三日（土）

二、第五十五回 小学校学校行事研究全国大会

神奈川・横浜大会は令和三年度に延期

三、夏季研修会等 中止

四、講演会 〈オンライン講演〉

二月二十六日（金）

演題『よりよい社会を自ら築く力を育てる

学校行事の創造』「仲間」「本物」「感動」

そして「共生」へ』

國學院大學人間開発部教授

杉田 洋 先生

令和二年度 地区別研究発表会

【北地区】（千代田・中央・新宿・文京・中野・

杉並・豊島・北・板橋・練馬・島しょ）

〈紙面にて発表〉

一、「コロナ禍における儀式的行事の在り方」

練馬区立北町小学校 校長 田村 亜紀子

【東地区】（台東・墨田・江東・荒川・足立・葛

飾・江戸川）

〈紙面にて発表〉

一、「みんなで祝おう！開校十五周年記念集会」

墨田区立隅田小学校 教諭 木戸田 正大

二、「目指せ！みんなが輝く、表現発表会」

墨田区立曳舟小学校 教諭 島田 泰子

三、「小梅オンラインフェスティバル」

墨田区立小梅小学校 主任教諭 片岡 泰代

四、「おまつり広場」緑のなぞときムービーラリ

ー」

墨田区立緑小学校 主任教諭 戸部 陽子

【南地区】（港・品川・目黒・大田・世田谷・澁

谷）

〈紙面にて発表〉

一、「コロナ禍における運動会の実践」責任感を

もって取り組んだ運動会」

渋谷区立千駄谷小学校

教諭 由井 武史

二、「新型コロナウイルス感染症への対応

創立九十周年記念式典の実施」タブレッ

トの活用や児童が進めた記念集会」

渋谷区立富谷小学校

主幹教諭 原口 直巳

三、「新型コロナウイルス感染予防を踏まえた

創立九十周年記念式典の実施」タブレッ

トの活用や社会の一員としての基盤づく

り」

渋谷区立神宮前小学校

主任教諭 畠山 由香里

四、「豊かなかわりのなかで自ら築く力を育

てる学校行事」コロナ禍での学校行事の

取り組み」旗台フェスティバル」

品川区立旗台小学校

主任教諭 田中 東容子

【西地区】（八王子・立川・武蔵野・三鷹・府

中・調布・町田・小金井・日野・国分寺・国

立・狛江・多摩・稲城・昭島・小平・東村山・

西東京・東大和・清瀬・東久留米・武蔵村山・

青梅・羽村・福生・あきる野・瑞穂・西多摩）

〈オンラインにて発表〉

二月二十六日（金）

一、「コロナ禍での日光移動教室」感謝の気持ち、

互いの良さを認め合い、協働できる児童の

育成」

八王子市立みなみ野小学校 教諭 関 駿太

講師 エジプト日本学校（EGS）

スーパバイザー 鈴木 純一郎先生

指導・講評・講演

國學院大學人間開発部教授

杉田 洋 先生

第五十五回

小学校学校行事研究全国大会

神奈川・横浜大会

大会主題

主体的に学びを進め、自己実現や社会参画
につながる学校行事の創造

～自己有用感を高める体験活動とその
学びの過程～

開催日

令和四年二月十二日（土）
午前十一時から（午前十時半から受付）

内 容

◆全体会

○開会式

○基調講演

文部科学省初等中等局教育課程課
教科調査官 安部 恭子 先生

◆分科会

◆レセプション

会場

◆横浜市教育会館

JR・横浜市営地下鉄「桜木町駅」か

ら徒歩十分

京急線「日の出町駅」から徒歩十分

◆横浜市健康福祉総合センター

JR・横浜市営地下鉄「桜木町駅」か
ら徒歩二分

分科会

▼分科会提案▲

◇第一分科会「年間指導計画・評価」

【テーマ】主体的な学びの過程を意識し、
社会とつながる学校行事の年間
指導計画

【発表予定】東京都 相模原市

◇第二分科会「儀式的行事」

【テーマ】主体的に取り組むことで新し
い生活の展開への動機付けとな
る儀式的行事

【発表予定】埼玉県 兵庫県

◇第三分科会「文化的行事」

【テーマ】主体的な学びの中で意思決定
を重ね、自己実現につながる
文化的行事

【発表予定】名古屋市長 東京都

◇第四分科会「健康安全・体育的行事」

【テーマ】仲間と協力しながら主体的に挑
戦し、自己実現を目指す健康安

全・体育的行事

【発表予定】大阪市 宮城県

◇第五分科会「遠足・集団宿泊的行事」

【テーマ】主体的な活動を通して自他を尊
重しながら事故有用感を高め
る遠足・集団宿泊的行事

【発表予定】新潟県 横須賀市

◇第六分科会「勤労生産・奉仕的行事」

【テーマ】主体的な体験活動が将来の社会
参画につながる勤労生産・奉仕
的行事

【発表予定】北海道 横浜市

参加費・申込方法

◆参加費 四千元

◆申し込み

大会事務局長 横浜市立嶮山小学校

副校長 内田宏平

〒225-0021

横浜市青葉区すすき野一の六の四

電話 ○四五九〇二七一六一

※変更になった場合等は全国小学校学校行事研
究会のホームページでお知らせいたします。